福祉と住環境を考える

ふくてっく

2021 年 1 月
第 99 号

特定非営利活動法人
ふくてっく

559-0034　大阪市住之江区南港北 2-1-10　ATC・ITM 棟　5 階　J-5-4
TEL　06-6614-6800
mail@fukutech.sakura.ne.jp　　http://fukutech.sakura.ne.jp./

～ＮＰＯ法人 ふくてっく 定期総会報告～

令和元年度は前半と後半で大きく環境が変わってしまい、後半の令和２年に入ってからは新型コロナウィルスに翻弄され、現在もまだ収束の気配すらない状況ですが、とにかく体調管理が大切な日々が続いています。そんな中で行われた定期総会は異様な雰囲気となりました。ソーシャルディスタンスの関係からいつもの会場では参加会員の収容が難しく、広い会場を用意し、会として非接触体温計と消毒液を準備し、マスクやフェイスガード装着での参加となり万全の状態で開催しました。

２月頃から猛威を振るっている新型コロナウィルスは、ふくてっくの活動にも大きな影響をあたえました。総会冒頭に理事長総括でも述べていますが、如何に私たちふくてっくの活動が、高齢者、障がい者（児）、幼児童など健康面に注意が必要な方々と接する活動が多かった事かを実感する事になりました。ここからはそんな影響があった活動と次年度の計画を見ていきます。

【事務局報告】では、ふくてっくとしては異例となりますが、コロナ禍の影響で３月から６月まで定例会のメインとなる学習会の開催を控えました。同時に定例会への会員の参加も少なくなり、公共交通機関を使う事や密となる会場での入場制限など制約も多く、体調への不安払拭に努める期間となりました。

【ふくてっくのつどい】では、前年度の最多８活動から一転、令和元年に行った３活動だけとなりました。令和２年に入ってからの活動予定は全て延期となってしまい、現在もまだその予定は決まっていません。自由木工や工具体験など密になる事が多く、コミュニケーションをとりながらの活動なので今の状況では活動は難しい状態です。次年度についてはまだまだ楽観的な計画は組めませんが、年間５件ほどの木工活動を予定しています。これまでのやり方、接し方をしっかり見直し、感染症が流行したとしても対応出来るように取組んでいきたいと思います。

【東大阪部会】では、行政の委託事業ですので国から発出された「緊急事態宣言」の影響をうけ、これまでおこなってきた現地検証が一時期出来なくなりました。申請書類審査での対応をしていましたが、住宅の状況、対象者の身体状況が確認出来ない状態では判断に悩む事が多くありました。やはり質疑や会話をしながらの検証の意味を実感する事になりました。また毎月行う部会も ZOOM を使ったオンライン会議となり新しい試みの中、何とか会員の判断基準の共有につとめる努力は続けてきました。次年度も感染に注意しながら最善の予防対策をとりながらの活動は続くと思われます。

【こむねっと部会】では、メインの活動である第三者評価の受審件数は１１件となり、評価実績としては過去最高を更新し、ふくてっくの中では一番活発な動きが出来ています。こちらはコロナ禍の影響が一番少なかった活動となりましたが、第三者評価以外の活動では延期や停滞が続いています。評価者の増員も図りつつ各人のレベルも上がっており大阪府の評価機関が減る現状では、ふくてっくが担う役割も重要になってきている状態です。既に次年度の受審打診も入っており、まだまだ第三者評価は未開拓の領域が膨大でこれからの取組みが正念場になると考えられます。

ここまでの報告と計画を見てもわかる様に、これまでの活動方法、これまでの心構えで乗り越えていくには難しい社会環境になりつつある中、どの様な状況になろうとも、普遍的に遂行できる活動にする事が大切となります。
そういう意味では、年度後半は臨機に対応しなければならない事も多く、何とか対応してきましたが、そういう意味ではこのコロナ禍の中で何とか踏ん張っているなと感じています。これからも元気に活動できるよう形態を変えながら活動を続けていきます。

最後になりますが、ふくてっく会員も高齢者が多い事から、今後も十分注意しながらワクチンが世に出回るまでは、無理はせず勇気を持って自粛する等、自己管理でこの危機を乗り越えたいと思います。　　（小川　忠雄）

『岩屋・日の出』　画：中北　清

こ む ね っ と 部 会　～こむねっと部会（第三者評価）の展望～

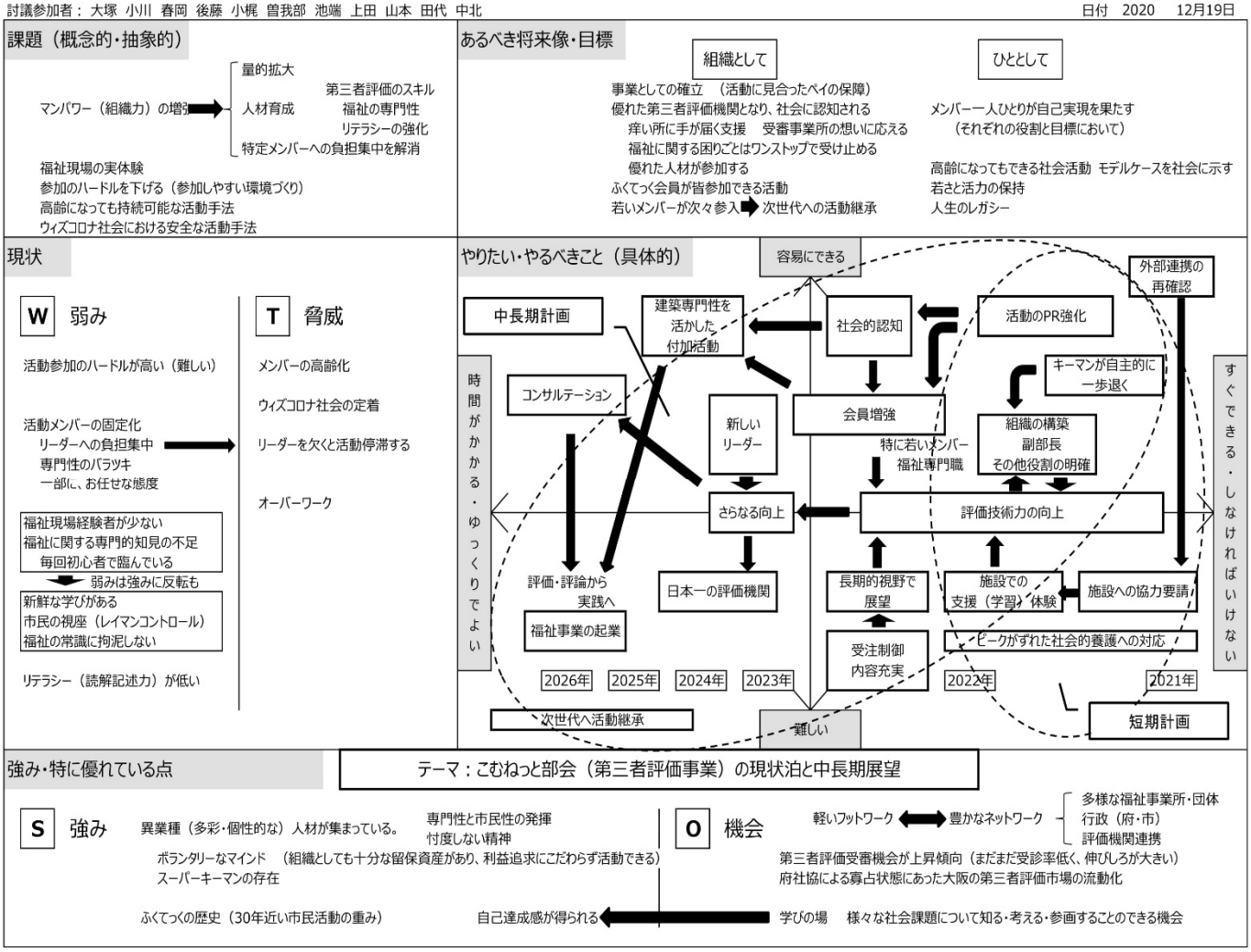
こむねっと部会が推進する福祉サービス第三者評価（以下「第三者評価」）は２００５年６月１５日に評価機関認証を受け、既に 15 年余を経過しています。初期の１０年余はほとんど活動機会を得ることもできず、３年のうちに１件以上の実績をあげるという、評価機関継続の最低要件達成にも汲々としている有様でした。
石の上にも１０年！２０１７年度になって漸く社会的養護関係施設の評価活動が動き始め、４件に取り組みました。２０１８年度は社会的養護関係施設の評価第３期初年度にあたり、その件数は減少しますが高齢・障害分野で５件を評価、２０１９年度は再び動き出した社会的養護関係施設を中心に１２件と逓増していきます。なかでも大阪市中央一時保護所の評価に取組めたことは大きな成果でした。２０２０年度は、それまで第三者評価事業の大半を寡占してきた大阪府社協が突然事業撤退したことを受け需要が大幅に拡大しましたが、一方でコロナ禍による社会活動の停滞も重なり、それでも９件の実績で年度を終えようとしています。その中で、社会的養護関係施設については５種（児童養護・乳児院・児童心理治療。児童自立支援・母子生活支援）の全てを評価することができました。大きな前進です。

来年は、願わくばコロナ禍も収まってほしいところですが、ウイズコロナ社会を前提としてさらに飛躍していきたいと思います。受審義務期限が１年延長となった社会的養護関係施設の受審ラッシュも予想されます。やはり延期となった一時保護所、そして来年こそ未開拓の保育所にもチャレンジしたいところです。
別表は、昨年１２月１９日の部会で討議した現状把握と中長期計画展望です。
あわてず・あせらず・そして、あきらめず・・・前進しましょう。

ただ、補足しますが、このチャートではあたかも福祉事業の起業がすごろくのゴールのようになっていますが、そうではありません。それは第三者評価と決別することを意味します。そのことも含めて次世代の判断に委ねましょう。

筆者の個人的な夢を言わせていただければ、そこに落ち着く（一所懸命）ことなく、永遠に流浪の旅を続ける風（一生賢明）になりたいと念じているところです。

（中北　清）



東 大 阪 部 会　　～コロナ禍での活動～

①

②

③

東大阪部会は、東大阪市からの委託事業として始まった適正検証事業は１５年目にはいっています。R２年度から介護保険住宅改修においては、市は現場目線から書類優先の対応と大きく舵を取りました。また、事前協議即着工可のシステムが変更され、約１週間という期間をおいて着工の有無を通達することになりました。当会が当初から検証案件と検証外案件の公平性を保つために提案していた事が１０年以上経ってやった実行されるようになりましたが、その意図は私たちの思いとは違うものでした。私たちは利用者ファーストの考えを基に適正化検証に関わり今年度も継続して事業を展開していきますが、私たちのような第三者機関が検証する必要のない行政システムと地域福祉力が連携して支える社会を目指します。

検証活動ではコロナ感染防止対策として、担当者の検温・体調チエック、マスク着用、訪問先での消毒等を行い、また、訪問先の対象者やご家族・関係者にもマスク着用をお願いしています。

訪問調査では、石切等の急な坂を上り、また、エリアも広く、自転車での活動には担当者の負担が増していたので、R２年１１月にアシスト付き自転車を購入しました。

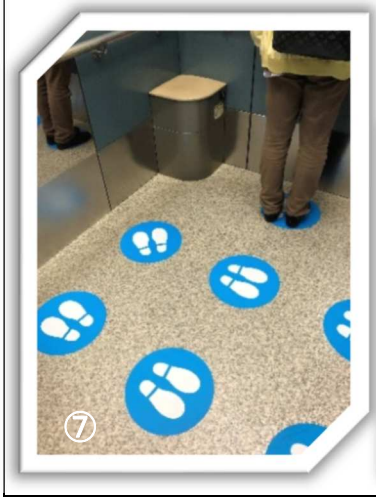
写真は、①９階の私たちが執務する部屋から生駒山方面の眺め　②アシスト付き自転車２台　色はホワイトとブロンズ(YAMAHA)　③自転車は公用の駐輪場に常駐、自転車には「障害施策推進課・給付管理課　公用」のラベル　④バッテリー装備　⑤バッテリーは執務室で充電、「障害施策推進課・給付管理課　公用」のラベル　⑥活動に必要な書類等を入れているワゴン　⑦東大阪庁舎エレベーター内コロナ感染予防対策

(清水麗子)

④

⑤

⑥


⑦

ふくてっくのつどい

～ふくてっく会員交流会 鶴見緑地バーベキュー【10 月 18 日(日)】

３月以降、コロナ禍の影響で“密になること、大声で騒がないこと”などふくてっくが大切にしているコミュニケーションが取れない状況が続いており、何とか交流の機会を持てないかと考えていました。

何に気を付ければ良いのか？個人の注意としてマスク着用などしている中、換気をすることが大切と言われています。
そこで安直に屋外なら出来ないか？換気の心配もないしソーシャルディスタンスも取れるのでは？という事で屋外でのバーベキューを実施しました。結果としてちょっとした気分転換が出来たのではないかと思います。

前日の雨で足元はぬかるんでいましたが、当日は１２名が３テーブルに分かれて参加しました。他のテーブルでは若者の集団や家族も多く参加していましたが、子ども達は楽しそうに解き放たれていました。そんな中、さすが大人のふくてっくバーベキューだと感じたのは食材の豊富さはさすがでした。食材以外は全て準備されており、食材は持込みとしました。もうがっつり肉！肉！って事ではなく、牛肉はもちろん、牛タンも用意し、海鮮も豊富にイカや小鯛、鮎まで焼くという華やかな網上でした。ふくてっく恒例の甘い焼き芋も美味しく食し、今回初めて長芋にもチャレンジして新たな美味も食しました。時間にして約３時間弱。飲んで食べて普段あまり交流のない会員間の会話もはずみました。

こんな状況だからこそ、何でもやろうではなく新型コロナの事を理解し恐れながら、気を付けて、“交流”も大切な事だという事で大満足のイベントとなりました。

ソーシャルディスタンスにも気を配っての“交流会”

～つどい 材料調達 by 岡さん別荘【10 月 31 日（土)】～

「ふくてっくのつどい」の令和２年の活動は全て延期または中止となっています。そのような中、これまで毎年依頼いただいている幼稚園から「材料と工具があれば幼稚園で木工が出来るのですが・・・」との相談がありました。年末にクリスマスに向けて壁掛けのクリスマスツリーとリースを作成するという企画でした。その要望に応える形で材料調達を考えていたところ、岡会員の別荘に伐採した木々がたくさん寝かせてあるということを聞きつけ、７名で木材の輪切りとサンプル作りに向かいました。

現地では思った以上の大木が伐採されており、直径２０ｃｍ弱の木材の輪切りを予定枚数確保することが出来ました。木工のサンプルも作成し幼稚園にはイメージがつくような物が出来ました。今回、材料調達初参加の会員や岡会員の別荘初参加の会員もおり、ちょっとした小旅行感覚でした。しっかりと作業を終え一汗流した後は恒例の“あれ”が待っています。

それは、作業の後の恒例バーベキューであり、美味しい食材とこの一杯が疲れを吹き飛ばしてくれる、コロナ禍も忘れるほどの自然の恵み満喫でした。このようにふくてっくには自然木が調達できるこの環境が木工活動を支えており有難く感謝しています。　（小川　忠雄）

↑手際よく木材を輪切りしていきます。

恒例の“あれ”です→

会員コラム

『 ダイヤモンドトレイルに参加して 』

田代加奈

11/8 大阪府チャレンジ登山大会、ダイヤモンドトレイル初級コースに参加しました。登山のお誘いにハイキングみたいなものだろうとよく調べもしないでエントリーしての参加でした。好天に恵まれ、朝８時に当麻寺駅近くにスタート地点を５人グループで出発、竹内峠～岩橋山～大和葛城山、全長 14ｋｍのコースです。しかし、歩き始めてすぐに参加した事を後悔。日ごろ運動不足で息が上がり、足も上がらずハァハァ言いながら進みました。多くの参加者が軽々と私たちを抜いていきます。私たちは女子会気分で苔や草花、風を愛でながら、最悪日暮れまでに着けばよいだろうとのんびり構えており、最初の登りが終わったら楽に進めるとの思いは大間違い、登っては降り登っては降りの繰り返し、結果的に３つの山を登り降りしました。足取りは段々重くなり、寒いと思っていたのに登りで汗だくになり、下りは寒くなりまた重ね着をする、後悔しても山の中、行くしかない状況でした。ちょうど中間の岩橋山の頂上付近でやっとお昼の休憩をとり、少し元気がでました。しかし今度は急勾配を降りる階段に私はむこう脛が攣ってしまい、このまま帰れるかしらと思いながら、ちょっと進んでは休憩、更に多くの方に抜かれながらようやく到着時間の予想ができた頃、事務局である山岳連盟の方々と遭遇。なんと私たちはビリグループになっており、山に参加者をとり残すわけにもいかないので連盟の方が私たちの後をピッタリくっついて来ます。「ゆっくりでいいですよ」と言われてもそういう訳にも行かず、何とか最後の５００段近くある山の階段を登って、ようやく午後２時半に葛城山に到着しました。コースを調べて、「登山は無理、山頂で待つね」と言った賢明な友人２人が私たちを迎えてくれました。本当に疲れました。もう２度と参加したくないとその時は思いました。

それでも不思議なことに翌朝になると体があちこち痛いにも関わらず、もう少し緩やかなコースから準備して挑戦してみようかなと言う気分になりました。ぐだぐだの登山でしたが木々の緑や紅葉、木漏れ日や風の心地よさは満喫できました。こうやって山の魅力に取りつかれるのだろうなと思いました。ただ、今度はなだらかな山を一山だけ登るコースを探そうと思います。

『中秋の名月に思う』

川北武志

自然を感じる事が、普段の生活でありますか。都会に住んでいると、日々の生活に追われ積極的に接しようとしない限り自然を感じることがなかなか出来ないものです。皆さんは、何か自然を感じることをされていますか。例えば、空を見上げるのは、どうでしょうか。たとえビルが建ち並んでいても、空は、広がっています。悠々と雲が流れ、形を変えていきます。夜の空は、どうでしょう。

今年の中秋の名月は、１０月１日でした。「天の原ふりさけみれば春日なる三笠の山に出し月かも」をふと思い出し、若草山の山頂から満月を見るため出掛けてきました。結構たくさんの若い人たちが、来られていました。明るく照らされる満月を見て、悠久の時を感じ、時空を超えた不思議な感覚に浸りました。月は古代から満ち欠けを繰り返しています。

昔の人は、月を題材に和歌として歌うことが多かったように、現代の私達よりもっと身近に月を感じていたのでしょう。

秋の夜長、空を仰いでみては如何でしょうか。
心を揺れ動かすようなことが何か起こるかもしれません。

「ある日のお客様との会話　二〇」

秋岡　安

客：持続化給付金の不正受給がニュースになってるね。
私：どっかの大学生も逮捕されましたね。返還申し出も数千件にのぼっています。この給付はスピード重視で審査が甘いという批判もありますね。
客：うちの会社も、もうもらったけど、そもそもコロナで売上が減少して経営が大変なところを助けようというのが趣旨でしょ。
私：そのとおりです。コロナの影響で令和二年のある月の売上が前年の同月と比べて五〇％以上減少した事業者を支援するものです。
客：ＮＰＯ法人も対象になるの？
私：もちろんＮＰＯ法人も非営利法人も対象です。事業収益のない寄附や会費だけのいわゆる寄附型のＮＰＯ法人も条件しだいで対象となります。
客：そうなんだ。いつまで申請できるの？
私：令和三年一月十五日までです。
客：家賃の支援金もあるよね。今経理の子が申請作業してるけど。
私：そうです。この給付金は令和二年の五月から十二月までの売上が①ある月の売上が去年の同月の売上と比べて五〇％以上減少している②今年の連続する三か月の売上の合計が去年の同じ期間の売上の合計と比べて三〇％以上減少している①か②のいずれかに該当すれば給付金の対象です。
客：うちは①やね。持続化と同じで五〇％減だったから。
私：そうですね。この他にも固定資産税の軽減もありますね。
客：いろんな給付金があるのはありがたいけど、なんとか事業を続けていきたいね。早くコロナが終息してほしいよね。
私：そのとおりです。早く安心して飲み会に参加したいです。
客：そこなん、先生は。
＊寄附金等を主な収入源とするＮＰＯ法人の皆様へ
内閣府ＮＰＯホームページ
https://www.npo-homepage.go.jp/uploads/leaflet-npo-jizokuka.pdf

■　R2 年 7 月以降　学習会

7月「防災マルチライト」
講師：㈱サンエー　鈴木直喜氏

8月 総会（学習会なし）

9月 「精神疾患患者　当事者の話」
講師：鈴木　仁美氏

10月　学習会なし

11月　学習会なし

12月　学習会なし

■　R3 年　定例会・学習会予定

1 月 9 日（土）13：30～17：00 頃
会　場： 住まい情報センター
（学習会なし）

2 月 6 日（土）13：30～17：00 頃
会　場：大阪市立社会福祉センター
学習会：未定

ことば・コトバ

【　カーボンニュートラル　】

カーボン(carbon)＝炭素、ニュートラル（neutral)＝中立

「生産など何かを行ったときに環境中に排出される二酸化炭素と吸収される二酸化炭素の量が同じ」という概念。

植物は光合成により大気中の二酸化炭素を取り込んで成長するため、植物を燃やして二酸化炭素を発生させても、空気中に排出される二酸化炭素はもともと植物が取り込んだものなので、大気中の二酸化炭素総量の増減には影響を与えないと考えられ､「カーボンニュートラル（二酸化炭素=炭素循環量に対して中立)」と呼ばれています。

木材を建築資材や家具等に利用している間は炭素が固定・蓄積された状態と考えます。植物を成長させ循環による再生性が実現しなければ二酸化炭素が大気中に滞留することになってしまいます。

トウモロコシやサトウキビからつくったバイオエタノール、薪(まき)、木質ペレット、農業廃棄物などは環境に優しい原料・燃料であるとして利用を推奨する動きも広がっています。しかし、バイオエタノールの生産については、食糧にあてられるトウモロコシなどを大量に利用したため、穀物価格の高騰や森林伐採を招いたとの批判や植物由来の原料・燃料の製造・運搬に化石燃料によるエネルギーが大量に使われるため、かならずしもカーボンニュートラルではないとの見方もあり、植物由来の原料・燃料の製造・輸送時に使うエネルギーも再生可能エネルギーに変えていくなどの多角的な対策も求められています。

…事務局より…

★　理事会・総会　開催状況

・令和二年八月一日
理事会

・令和二年八月一日
総会

・令和三年二月六日
定例理事会

★年会費が変更になりました

正会員　五千円
学生会員　千　円
通信会員　五百円

NPO 法人ふくてっくとは・・・・

ふくしとは
くらしを守る
てくにっく
つよーいみかたの
くろーと仲間

ふくてっくには、建築・医療・福祉分野の有資格その他、多岐に亘る専門職が参加しており、お互いの専門領域における見識と誇りを大切にしつつ、相互の研鑽しあう機会を育んでいます。キーワードは「生活者の視点、当たり前の感覚です。」是非あなたも仲間に入って、自らの人生を耕しませんか。一度、定例会（原則：毎月第 1 土曜日、13:30～　）にご参加ください。定例会では、会員の活動報告や講師を招いての学習会等を行っています。正会員以外の方が定例会に参加される場合は、参加費 500 円です。

＊会費：入会金/無料
：年会費/正会員　5,000 円、学生会員　1,000 円、通信会員　500 円

＊連絡先：TEL　06-6614-6800
ホームページ　http://fukutech.sakura.ne.jp/
メールアドレス　mail@fukutech.sakura.ne.jp